

年 組 名前：

問1

76歳以上の会員の健康調査に、

往復はがきを活用するのは

どうしてですか。

.....
.....
.....
.....
.....

問2

往復はがきの返信面に印刷してある

7つの質問のうち、3つを

挙げてください。

.....
.....
.....

問3

記事に出てくる、次の漢字の読み方を書いてください。

状態「 」 交流「 」 感染「 」
食欲「 」 有志「 」 協議会「 」

お年寄りの体調 はがきで「往診」

笛吹シニア交流維持狙う

笛吹市シニアクラブ連合会（田中勇会長）は、76歳以上の会員に往復はがきで健康状態などの聞き取りを始めた。コロナ禍で一堂に会した活動ができない中、要介護やフレイル（虚弱）になっていないかなど健康状態を把握するとともに、クラブや高齢者サロンが担ってきた交流の機会を維持するのが狙い。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、多くのクラブが1年以上にわたり集会などを自粛。会員から「このままでは心身とも弱ってしまう」という声が多く寄せられていた。インターネットの利用が苦手な会員もいることから、文通で交流を図ることにした。

初回の往復はがきには、返信面に「最近転んだことがあるか」「食欲が無い日はあるか」「生きがいになる趣味活動はしているか」など七つの質問を印刷。7月下旬から、各地区の有志が「手書きのぬくもりを届けたい」と、市市民活動・ボランティアセンターで宛名書きを始めた。はがきは76歳以上の会員約2500人に送付する予定。市社会福祉協議会が事務局を務め、今後も定期的に行っていく。田中会長は「認知症やフレイルの兆しがあれば早く手を打ちたい。顔が見えなくても、気に掛けていることを感じてほしい」と話している。

（中嶋寿美子）

宛名を書くボランティア
＝笛吹市八代町南



（2021年9月7日付 山梨日日新聞 20面）